

(2) 医学部での授業

医学部に進学し、内科学、そのなかでも血液学を専攻した。しかし、誰にどのような授業を受けたか、どんな授業に感銘を受けたかについて、加藤はほとんど書き残していない。(写真：左は医学部本館、右は解剖学教室での加藤、右端)



わずかに書かれたのは、太田正雄（作家名は木下杢太郎）の皮膚科学講義に出席していたことについてである。太田が使った『皮膚科学講義』という教科書（立命館大学加藤周一文庫所蔵）について『言葉と人間』という著書に言及がある。この講義を何年に受講したかは不詳だが、感銘を受けた講義であったのだろう。「太田正雄における歴史意識の意味が『皮膚科学講義』に、歴史的なわく組のなかでの分類学の方法の検討という形で、あきらかに読みとれる」と評価する。学生のときにこの評価通りに考えたのかどうかは分からないが、何らかの感銘を受けた講義であったことは間違いない。それゆえに、加藤は太田についていくつかの評論を書き、実現しなかったにせよ、太田正雄の評伝を著わす計画をもち、かつ『鷗外・茂吉・杢太郎』を著わすことによって近代日本思想史を辿ろうとしたのである。

もうひとつは卒業の前年に齋藤茂吉の経営する青山脳病院（当時は世田谷区松原にあった）で、研修を受けようとしたことである。しかし、茂吉との面談の様子は描かれるが、齋藤の

人となりが中心になり、研修の内容については触れられない。

医学部での講義内容について、これ以外はどこにも書かれてはいない。